

地域に飛び出す市民国際プラザ！

『市民国際プラザ』では、国際協力や多文化共生に関する自治体、地域国際化協会、NGO/NPO等の相談に対応しています。更に、各地の**先進的な活動**取材し、本ダイジェストでご紹介しています。

– **佐賀県、福岡県を訪問しました！（1）** 2021年12月、佐賀県、福岡県の自治体や国際交流協会、多文化共生に関わる団体などを取材した内容を2回に分けてご紹介します。佐賀県は多文化共生の取り組みや、NGO等との連携が活発である地域。また福岡県古賀市は市役所に新たに多文化共生係を設置して市をあげて取り組んでいます

佐賀県・(公財)佐賀県国際交流協会 (佐賀県佐賀市)

◆市町や地域、企業等との連携で進める多文化共生の地域づくり

佐賀県の外国人人口の比率は全国的に見て高くはないものの（2021年1月現在で約0.9%）、増加率は高く、多文化共生の施策が進んでいるという印象があります。その要となる佐賀県地域交流部国際課の北御門織絵さんと、今回のインタビュー会場である国際交流プラザを運営する佐賀県国際交流協会の矢富明徳さんにお話を伺いました。

佐賀県は平成26年度に佐賀県国際戦略を策定し、県の経済振興や国際協力を進めていく上で世界とともに発展する佐賀を目指すとともに、内なる国際化（多文化共生の地域づくり）を進め、意識の醸成を図ってきました。

翌年に大学に委託して実施した「佐賀県における多文化共生に関する調査」の結果から佐賀県の多文化共生の課題を見極め、各事業を進めています。その中で、地域における多文化共生の核として、同じ生活者としてのコミュニケーションの機会の創出と相互理解を推進するため、地域における外国人と日本人のコミュニケーションの場である「地域日本語教室」の設置を推進しており、その設置支援や、既存の教室の活動支援に取り組んでいます。県内の各産業分野に外国人住民の増加している現状を踏まえ、また、多文化共生の取組はまさに「地域づくり」そのものであることから、県が設置・運営（県協会への委託）している「さが多文化共生センター」（総合相談窓口）と連携し、企業内でのコミュニケーション支援や生活オリエンテーションの実施、地域との交流の機会づくりなど、産業分野との連携にも力を入れています。

「多文化共生の地域づくりは県だけが頑張っても実現することはできない、国際交流協会はもとより、市町や地域、企業などとの協働が重要」だとして、北御門さん自身が国際交流協会の職員だった経験から「行政と国際交流協会、両方の立場が理解できる」強みを活かして、多文化共生の取組を進めています。一方、佐賀県と密に連携する佐賀県国際交流協会では理事長を筆頭に矢富さん等の職員が非常に意欲的に取り組み、NGOやNPO、企業なども含めた連携が図られています。お二人のお話から、地域に多文化共生社会を作るといっけりした戦略と県と国際交流協会の強い意思が感じられました。



佐賀県国際交流プラザ

佐賀県国際交流協会のウェブサイトはこちら <https://www.spira.or.jp/>



～市民国際プラザを広く皆様に知っていただくために～

市民国際プラザのFacebookに「いいね！」をお願いします！



地域に飛び出す市民国際プラザ!

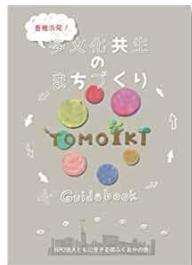
『市民国際プラザ』では、国際協力や多文化共生に関する自治体、地域国際化協会、NGO/NPO等の相談に対応しています。更に、各地の先進的な活動取材し、本ダイジェストでご紹介しています。

NPO法人とともに生きる街ふくおかの会 / 香椎浜小学校親子日本語教室「よるとも会」(福岡県福岡市)

◆福岡市香椎浜の取り組みから学ぶ、あなたの街の多文化共生のまちづくり

2001年度に活動を開始し、2016年度にNPO法人化した「ともに生きる街ふくおかの会(以下、「ともいき」)は、多文化の子どもの教育を中心とした学習会や情報交換会、多文化の子どもたちの就学・進路相談会などを開催しています。「ともいき」のメンバーである古賀美津子さんと伊藤亜希子さんにお話を伺いました。

「ともいき」メンバーは全員ボランティア。福岡市東区で多文化共生のまちづくりに取り組み、連続講座として多文化共生のまちづくり講座を公民館で開催するなど、地域の多文化共生社会の実現に向けて活発に取り組んでいます。2017年には、外国にルーツを持つ住民の生活支援や就学相談、地域住民の異文化理解等の活動が評価され、西日本国際財団アジア貢献賞を受賞。



古賀さんと伊藤さんは「ともいき」メンバーとして活動しながら、2003年に立ち上げた香椎浜小学校親子日本語教室「よるとも会」の代表、副代表として、日本語を通じた異文化間交流や学習者が寄せる相談に対応にも取り組んでいます。子どもの日本語教育について、国際交流協会や行政、学校と現場で活動する人や組織が連携していく必要があると訴えていました。

コロナ禍でオンラインのみで開催していた「よるとも会」も2022年4月からようやく、小学校の教室で再開するそうです。地域に密着して活動するこの2つの団体に注目したいと思います。

2021年6月、「香椎浜発! 多文化共生のまちづくり Guidebook」を出版

ともに生きる街ふくおかの会のウェブサイトはこちら <https://tomoiki-fukuoka.blogspot.com/>

福岡ネパールソサエティー (福岡県福岡市)

◆最も古くから活動する、福岡のネパール人コミュニティ団体

福岡ネパールソサエティーは、1995年から活動をスタートしたネパール人コミュニティ団体。国内のネパール人コミュニティ中で最も古くから活動している団体の1つです。会長のシグデル・マダブさんにお話を伺いました。マダブさんは2013年に来日してすぐ、同団体に加入し、日本語学校や専門学校で学んだ後に就職しました。そして2021年、26人目の会長に就任しました。団体設立当時は、福岡県に住むネパール人は10人程度(現在は全国でも多く7000人以上のネパール人が在住)だったそうです。



シグデル・マダブさん

現在団体のメンバーは現在15名。ホームページの登録者は県外の人も含めて7000人超です。主な活動は、ネパール人への母語によるサポート。来日したばかりの留学生に日本について生活のルールをレクチャー、通院の通訳サポート、自死の方の家族のサポート、イベント開催など、在住ネパールの方々になくはならない存在です。コロナ前は、毎年博多どんたくへの参加、8月のネパールの女性のお祭りティジ、日本人も参加するダサイン祭、天神の中央公園などでネパールフェスティバル福岡を開催していました。その他、2015年のネパール地震、2016年の熊本地震、2018年の朝倉市の豪雨など災害時の支援活動も実施しました。福岡県国際交流センター等を通じて行政とはよく連携しています。行政からの情報が人々に行きわたり、また人々の声が行政に届けられるよう福岡ネパールソサエティーが重要な橋渡し役となっているようです。お話を伺い、外国人コミュニティとの連携、これは全国の自治体が参考にしたい好例だと感じました。

福岡ネパールソサエティーのFacebookページはこちら <https://www.facebook.com/fukuokanepal/>